

令和8年度 第1回 静岡市オクシズ地域おこし計画推進協議会

開催日: 2026 年7月10日(金) 14:00~16:00

会 場: 静岡市北部生涯学習センター 第6集会室

次 第

1 開会

2 議事

(1)計画進捗状況の報告

(2)オクシズ地域おこし計画の見直し骨子案について

3 グループワーク

4 その他連絡事項

・今後の予定スケジュール

8 閉会

地域おこし計画推進協議会 委員名簿 (R7.10.1～)

	地区	氏名	期数	備考
1	北沼上学区	坂下 成紀	2期	
2	賤機中学区	荻野 春美	1期	
3	賤機北学区	海野 吉訓	2期	
4	服織西学区	塩阪 利明	1期	
5	南藁科学区	小林 孝好	2期	
6	中藁科地区	佐藤 雅一	3期	
7	足久保学区	上村 哲代	1期	
8	松野学区	望月 五郎	2期	
9	井川学区	遠藤 基	1期	
10	大河内学区	西島 和子	1期	
11	梅ヶ島学区	市川 慎悟	3期	
12	玉川地区	白鳥 敏夫	1期	
13	清沢地区	瀧脇 典世	1期	
14	大川地区	勝見 恒利	1期	
15	庵原地区	塚本 将人	2期	
16	小島地区	山本 勇治	1期	
17	両河内地区	望月 雅世	2期	
18	由比入山地区	佐野 英俊	1期	

オクシズ

令和8年度
静岡市オクシズ
地域おこし推進協議会

1 静岡市オクシズ地域おこし計画推進協議会の役割

(1) オクシズ地域おこし計画推進協議会の所掌事務

⇒ 静岡市オクシズ地域おこし計画の推進について審議すること

- ① 計画の進捗状況の評価に関すること
- ② 計画における各事業の進行管理に関すること
- ③ 計画の推進及び見直しに係る意見要望等に関すること

計画全体の進捗状況



第3次計画の途中ではあるが、
静岡市総合計画が新しく策定されたため、
期間を含めて地域おこし計画自体の見直しが必要

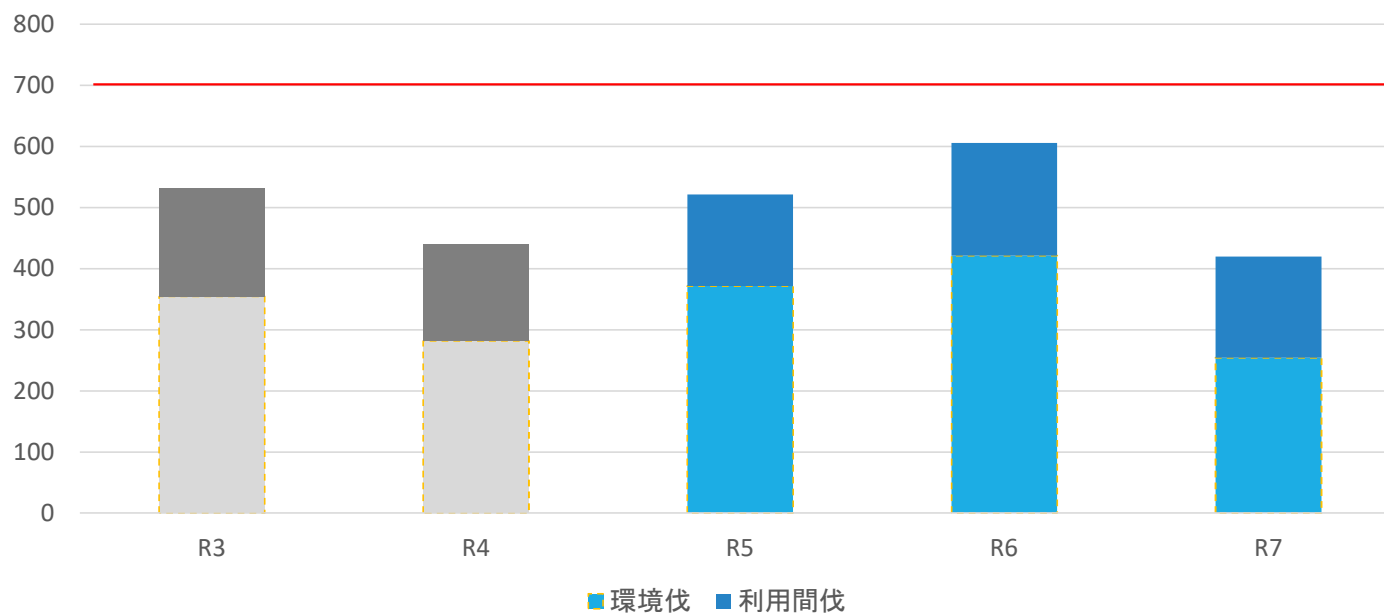
2 静岡市オクシズ地域おこし計画の進捗について

方針Ⅰ	保全と活用の両立
目指す姿	地域資源を守り、活かす 魅力あふれるオクシズ
大施策	保全
小施策	①農地や森林等自然環境の維持・保全の推進 ②南アルプス ユネスコ エコパークの保全 ③農林道や作業道などの整備と維持管理 ④地域における野生鳥獣被害対策の推進
成果指標	森林整備面積700ha以上／年

2 静岡市オクシズ地域おこし計画の進捗について

現時点

419.73ha(R7年度)



評価

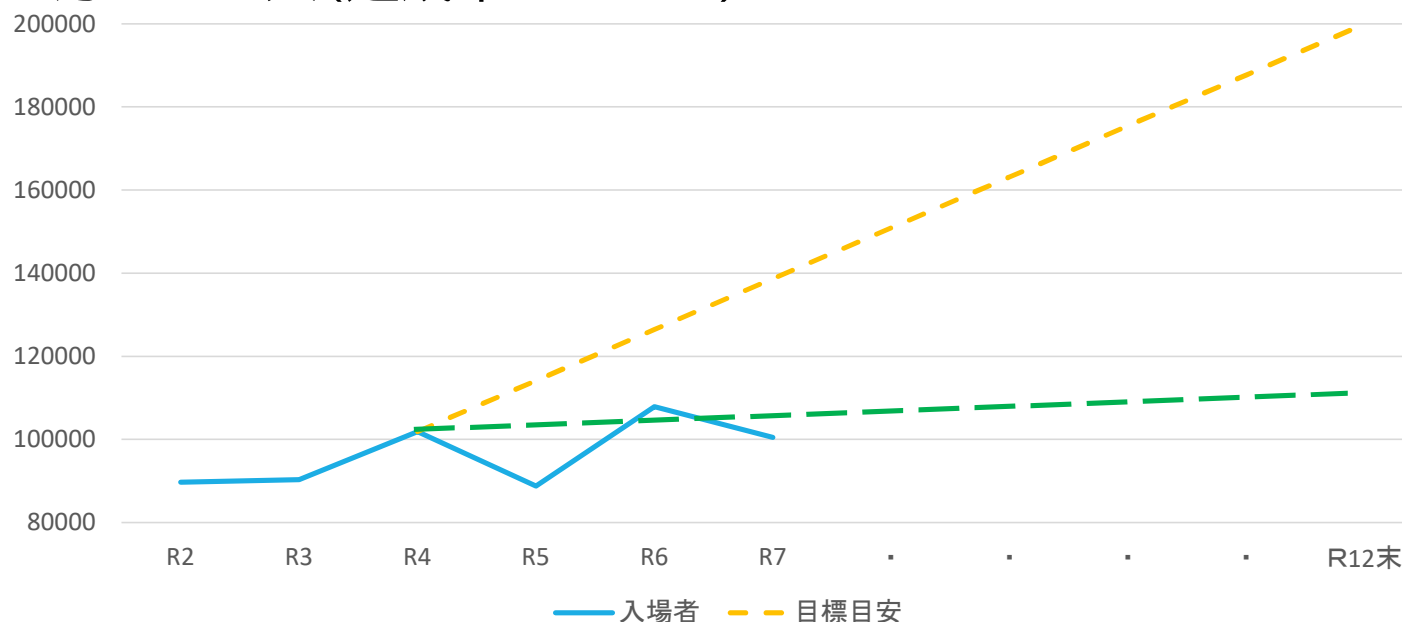
政策による影響が指標達成を左右する。
 静岡市は森林(もり)づくり基本計画を策定するなど、森林の維持管理を
 将来にわたり支えるための森林行政へ転換を図っている。

2 静岡市オクシズ地域おこし計画の進捗について

方針Ⅰ	保全と活用の両立
目指す姿	地域資源を守り、活かす 魅力あふれるオクシズ
大施策	活用
小施策	①農水産物の高付加価値化 ②木材の利用拡大 ③地域資源を活かした交流の促進 ④振興・交流拠点の磨き上げ ⑤未活用土地や空き施設の利用促進
成果指標	市営温泉入場者数20万人以上(R12年度)

2 静岡市オクシズ地域おこし計画の進捗について

現時点 10万0481人(達成率50.2%)



評価 終期での目標達成は著しく困難。
施設改修による好転も及ばないことから、地域振興のために入場者数を補う指標を設定することが妥当。

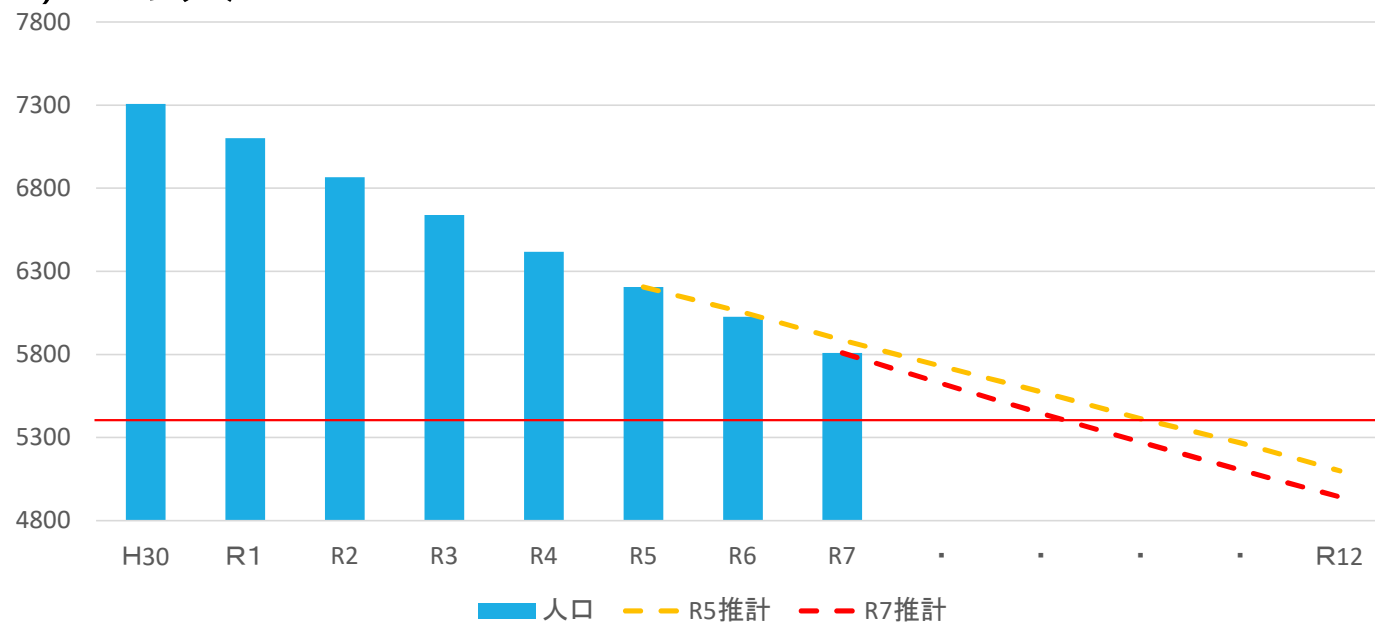
2 静岡市オクシズ地域おこし計画の進捗について

方針Ⅱ	暮らしの維持・向上
目指す姿	これからも住み続けられるオクシズ
大施策	住民サービス
小施策	①高齢者等が安心して生活できる環境の整備 ②医療体制の整備 ③子育て・教育環境の整備・確保 ④情報通信基盤の活用
大施策	生活基盤
小施策	①安全な道路整備 ②交通手段の確保 ③災害に強い防災体制の整備 ④水の確保など定住環境の整備
成果指標	R12時点の旧安倍6村と両河内の合計人口5400人以上

2 静岡市オクシズ地域おこし計画の進捗について

現時点

5,809人



評価

概ね推計どおりの人口減少が継続している。
 自然減少の力が大きく、社会増の力が影響力を与えていない。
 オクシズの人口動態は、社会の構造変化やトレンドの影響が大きく、単独の施策による効果の反映が困難。

2 静岡市オクシズ地域おこし計画の進捗について

方針Ⅲ 内と外からの活性化

目指す姿 山村と都市がともに盛り上げていくオクシズ

大施策 内発的な活性化

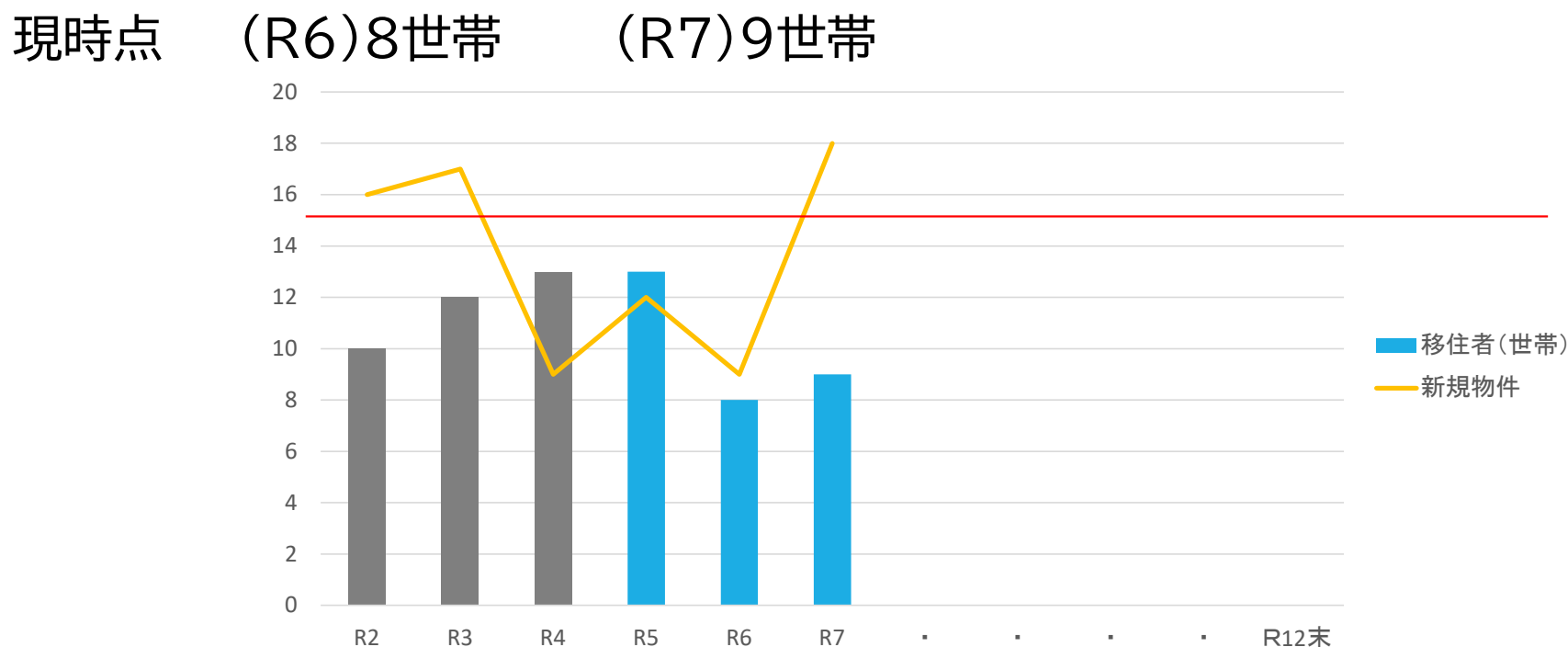
- 小施策
- ①地域産業の経営基盤の強化、担い手の育成
 - ②地域住民主体の仕組みづくり
 - ③オクシズに伝わる文化の承継

大施策 都市の力

- 小施策
- ①オクシズの意義・役割・魅力を伝えるプロモーション
 - ②都市住民と地域住民の交流促進
 - ③外部人材の活用や企業誘致の促進
 - ④オクシズへの移住定住の促進
 - ⑤環境保全活動への都市住民の協力

成果指標 空き家バンク経由での移住世帯数 15世帯以上／年

2 静岡市オクシズ地域おこし計画の進捗について



評価 指標は達成していないものの、限られた登録物件数での実績としては、移住希望者のニーズとの噛み合わせや問い合わせ対応が機能していると評価。移住したい人の不足ではなく、課題のひとつは住宅の不足。

2 静岡市オクシズ地域おこし計画の進捗について

いずれの成果指標も、計画終期における目標の達成が困難といえる状況になりつつあります。

現計画の策定時はコロナ禍という生活様式や人流の変化の過渡期でもあったことから、将来予測に不確定な要素もあったと考えられます。

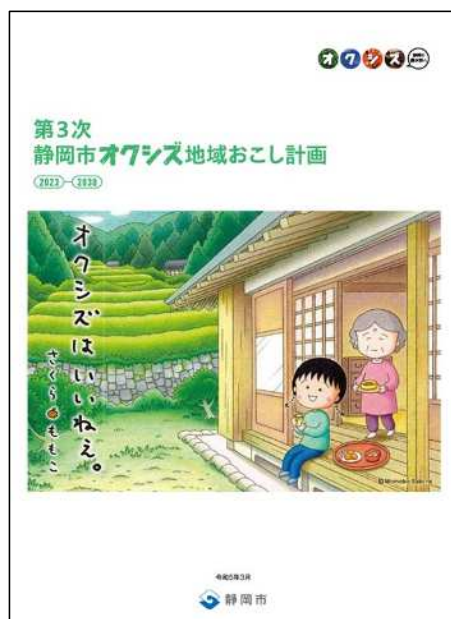
コロナ禍を経た現在は、AIをはじめとする“知能革命”や自然災害の激甚化などの“地球環境の危機”といった大きな変化の中にいます。

オクシズ地域おこし計画は、それらを踏まえて今一度目指すべき姿や目標を再認識し、より歩を進められる計画へ改めることが必要。

オクシズ地域おこし計画の見直し方法について

現行の地域おこし計画を
総合計画の視点で見直しすることで、
よりオクシズの振興に資する計画へと改善を図る

第5次総合計画の視点



- バックキャストिंग
- 成果志向型
- 協働・共創
- 現実の直視、時代認識

シン・
静岡市オクシズ地域おこし計画

第4次オクシズ地域おこし計画（仮）策定に向けた骨子案

1. 見直しの背景と趣旨

現在の「第3次オクシズ地域おこし計画」は2030年（令和12年）までの計画となっているが、市全体の「第5次総合計画（2035年まで）」が「成果志向型」計画へと見直されたことを踏まえて、オクシズ地域おこし計画も期間を含め見直しが必要。主な見直し視点は次の3点。

①「政策集型」から「成果志向型」への転換

何をするかといった行政のアウトプット（行動）ではなく、それによって住民の暮らしがどうよくなるかというアウトカム（成果）を重視する。

②バックキャストिंगの導入

人口減少等の厳しい現実を直視したうえで、「目指すべき未来」から逆算して今為すべき解決策を導き出す。

③「共働・協創」の深化

行政だけでは解決できない複雑な課題に対し、地域住民・企業・大学等が共に汗をかく仕組みを作る。

2. 目指すべき未来像

「安心・幸せ・個性を共に創る、定住のためのオクシズの実現」

目指すべき未来像のための成果指標
2035年9月30日時点のオクシズ人口18,258人
(市独自推計人口18,053人 +205人増加)

3. 重点的な方針と解決の方向性

総合計画の「分野別の政策」に基づき、オクシズ特有の課題に対する解決策を整理し、重点的な方針と成果指標を設定。

（経済・産業・環境）

○現状と課題

農林業の低迷、雇用不足による若年層の流出

○解決の糸口

森林資源の多角的活用（GX: グリーントランスフォーメーション）、企業誘致・起業支援による「新たな働く場」の創出

（共生・福祉・健康・生活環境）

○現状と課題

高齢化に伴う地域活動の担い手不足、移動手段や生活サービスの維持困難

○解決の糸口

DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した行政サービスの効率化、コミュニティ交通の最適化、多世代が交流できる居場所づくり

（観光・スポーツ・文化）

○現状と課題

各地域の魅力が十分に伝わりきっておらず、交流から経済への好循環が弱い

○解決の糸口

歴史・文化・スポーツ資源を生かした体験型観光の推進、都市部住民との「共創」による地域課題解決プロジェクトの展開

「地域の恵みを価値に変える力」
の強化

暮らしの安心と利便性の向上

交流と関係人口の創出

成果指標
起業数・雇用者数・
利活用に至った廃校数

成果指標
互いに助け合う暮らしやすいまちだと思
う市民の割合

成果指標
オクシズへの入込客数・消費額の増加

オクシズ 地域おこし計画見直しスケジュール

